

楷書造形原理の汎用力育成を図る書写指導

瀬筒 寛之*

(2020 年 10 月 21 日 受理)

Penmanship Instruction to Develop General-Purpose Skills of the Regular Script Principle

SEZUTSU Hiroyuki

要約

小・中学校においては、漢字指導では「字体」を、書写指導では「(より良い) 字形」を指導する。児童・生徒に身につけさせたい力として、整齊な楷書原理を他の文字に汎用できる力が挙げられよう。書写指導者は、教科書教材を基本としながら、その楷書原理を他の文字へ汎用化できるよう、授業計画を工夫する姿勢が求められる。

本研究では、書道演習 I (楷書法) の受講生に、天石 (1975)¹ の資料で学んだ後、毛筆による楷書原理の汎用化教材作成を課した。受講生は、全体の外形 (概形)、主画強調、左右の関係、三つの部分から成る文字、相対する縦画の方向、部分や画の右寄せ・左寄せ、ひらがなの七項目について汎用化字例を作成し、実践的に汎用化の態度を身につけていった。書写指導者は、漢字や仮名の組み立て方を詳細に分析・整理し、汎用化教材文字の種類や量を豊富にし、いつでも提示して楷書原理の汎用化を促すことができる体制を整備しておくことが必要である。

キーワード : 楷書、原理、汎用、字形、毛筆

1 研究の動機と目的

より良い字形指導は、書写教育の中心的指導事項である。平成 29 年に改訂された新学習指導要領は、令和 2 年度の小学校を皮切りに、令和 3 年度は中学校で全面実施される。新指導要領では書写の内容が「知識・理解」に位置づけられ、全ての学習の基礎としての性格が示された。言語学習の一環として正しく整った字形のとり方を学習内容とする小・中学校国語科書写においては、読み手

* 鹿児島大学 法文教育学域 教育学系 講師

の存在を意識することが学習の意義づけになるとされる。学年別漢字配当表の漢字は1006字から1026字に20字増加した。新出漢字を指導する際は、漢字の持つ「形・音・義」を指導するが、「形」については漢字指導では「字体」を、書写指導では「(より良い)字形」を指導することとされている。限られた授業時数の中で1026字全てを書写指導の教材として扱うことは難しく、系統的に効率よく指導するには、学年別漢字配当表を分析し、部首別分類や構成要素別分類²等を行う視点を持つておく必要がある。児童・生徒に身につけさせたい力として、整齊な楷書原理を他の文字に汎用できる力が挙げられよう。指導者は、単元の最終目標を、教科書教材の原理を他の文字へ汎用できるようになった状態とするよう、授業計画を工夫する態度が求められる。

小竹(2001)³は、書写教育における狭義の「実技力」への理解から生じる問題点を指摘した。その上で総合的な「書写実技力」育成の必要性を強調し、「有効な「書く力」を育成するためには、指導力や実践力、そして表現力が一体化した総合的な「書写実技力」が、大学における教員養成の段階で育成されなければなるまい。」と述べている。また浦野・津村・樋口・外田(2001)⁴は、中学生と大学生の書字傾向を分析し、平仮名・片仮名・漢字を問わず「組み立て」「点画の方向」「硬筆における基本点画の書き方」の指導が必要であり、平仮名では特に「結び」「大回りの線」の指導の重要性を導いた。

本研究では、以上のような先行研究を踏まえ、書写指導力向上を目指して、毛筆大字教材の楷書原理を他に波及させる汎用化教材作成を課題に設定した授業(書道演習Ⅰ：楷書法)の成果と課題をまとめる。因みに、本学における楷書に関する授業科目のうち「国語A(前期)・国語B(後期)」は、小学校教員免許用の「教科及び教科の指導法に関する科目」「各教科に関する専門的事項」「国語(書写を含む。)」に対応する。また「書道演習Ⅰ」は、中学校国語免許用の「教科に関する専門的事項」「書道(書写を中心とする。)」に対応する。

2 「手本」観について

これまで筆者が担当した他の科目での受講学生の実態から、学生の「手本」⁵観は、書写の学習は「手本」に似せ、近づけることが目標で、「手本」に近い方が評価も高い、といったものであらうと感じていた。そこで、書道演習Ⅰの1時間目に、天石(1975)(注1)の文章を用いて次のようなレポートを課した。

《レポート課題》次の文章を読み、書写に関する今後の自身の学び方や児童生徒への指導法について、考えに生じた変化や思うところを述べなさい。(補足)「手本」は書写の学びに欠かせないが、その捉え方は書写学習やその後の文字との関わり方にも少なからず影響する。これまでの自身の文字学習に関する経験等も踏まえながら、自由に記述しなさい。

本レポートは、受講生の「手本」観にゆさぶりをかけることを意図して出題したものである。

(1) 天石東村の「手本」観

次は、レポートの課題文として受講生に提示した資料の要旨である。

《天石東村「書造形の原理」(注1)の要旨》(筆者による)

楷書の「整齊」の美しさには、共通する造形上の原理ともいえるべき美の法則が見いだされる。これら力学的にも納得できる文字の形のとり方は、文字を正しく整える一つの基準であり、原理原則ともいえる。だれでも守るべき合点のいく法則を守ることは、それだけで客観性を持つ。

従来の書の学び方は手本を権威視し、最高のものと考え、ひたすらにまねる、無批判、無自覚に模倣することに終始したきらいがあった。しかし、そこに美化の基準、造形上の原理があるのならば、形を内からささえている法則、原理をあらかじめ見つけ出し、それをふまえて書くことがより効果的である。要するに手本を単なる模倣の対象と考えずに、手本なり古典の背後にあるものをつかみとって学んでいく態度が望ましい。お手本を見て、何も考えずにただ模倣をくり返すのではなく、「この楷書はなぜ整っているのか」「なぜ格好がよいのか」と考えて、その背後にある原理原則を理解して筆をとってもらいたい。そしてその上で転移文字を習うという仕方をすると、なるほどと理解できるだろう。

ここに示された天石の「手本」観は、書写書道教育における「手本」の位置づけに有意義な示唆を与えるものとする。天石は、毛筆大字教材の原理原則を生かす他の文字を「転移文字」と表現しているが、本稿では同様の意味で「汎用化」の文言を使用した。

（２）受講学生の「手本」観の実態

受講生のレポートからは先ず、旧来の「手本」観が読み取れた。それらは概ね筆者が事前に想定したものであった。以下に代表的なものを挙げる。

ア) ただひたすら手本を見てまねるだけで、手本が何を意図するか考えたことがなかった。何
度も手本通りに書き写し、書写が上達しているように感じていた。しかし、実際に日ごろ
書く字には変化は一切なく、上手い字を書こうとしても手本が無ければ上手い字を書くこ
とはできなかった。（受講生の記述のまま。下線は筆者。以下同じ。）

イ) 小学校から平易な言葉ながらも、楷書を整えるための原理原則があることは教わってき
ている。しかし、原理原則の意味や意図を深く考えさせられたことはない。そのため何がそ
の原理原則のなかで大事であるか、字形だけ真似すればよいのか、線の太さや微妙な具合
まで意識しなければならないのか、という情報が取捨選択できていなかった。

ア) のような感想を持っている受講生は多い。教材の整った字形の要点を、その一教材の範囲内でしか捉えられていなかったため、日常の多くの書字にはほとんど活かせていなかったと回想している。またイ) は、字形の原理原則という意識はあったものの、それ以上深く考えるきっかけとなる発問や授業展開はなく、「手本」の字形や太さ、微妙な具合等の「何を・どこまで」近づけようとするればよいのか、その観点や程度が曖昧なまま学んでいたと述べている。このように、受講生が過去に受けた授業は、書写学習全体を俯瞰して精選された一部の教材および教材化されない多くの漢字や平仮名、片仮名、ローマ字等を、いかに系統立てて汎用化を目指す授業計画の中で指導するか、という観点が不十分であった可能性を読み取ることができる。

（３）受講学生の「手本」観の変容

次に、本レポートから読み取れる受講生の「手本」観の変容について、代表的なものを挙げる。

- ウ) 小学校の頃、校内の書写コンクールで入賞した作品が廊下に張り出されていた文字は全て美しかったが、手本とそっくりであったわけではない。美しい文字の根底にあるものはおさえたうえで、やさしく見える字や力強い字など、一人一人の持ち味があった。
- エ) 一番に考えさせられたことは「楷書が一番整っている書体なのか」ということである。私はそうではないと思う。私はずっと楷書を基本に書道を学んできたにも関わらず、行書や隸書など、ほかの書体や作品を見ても美しいと感じる。それは手本を模倣して書体を書いてきたことで、すべての書体に通ずる、文字の美しさも学んだからであると思う。
- オ) 大学2年で久々に書道をしたときに感じた楽しさは、文字の原則原理や、古典文字についての知識を把握した上で自由にかけたからだ。文字を形通りに真似て書かせることはただやらせている作業に過ぎない。文字に対する知識や原則を把握した上で自由に書き、自然と文字が上達していくべきであると考えた。国語と書写の授業が別になっていたのも、本当は知識を学ぶ学習と実践して試す学習二つを重視するためだったのではないかと考えた。
- カ) 「真似て」というだけの指示では具体性も、真似なければならない理由も乏しい。今後書写を教えるときには原理原則があることを教え、何をどこまで真似するのかを明確にすること、そしてエラーモデルを示したり、その原理原則の意味を考察する時間を設けるようにしたい。

ウ)、エ) では、「美しい文字の根底にあるもの」「すべての書体に通ずる、文字の美しさ」という言葉で楷書の原理を表現している。本科目の1時間目に、ウ)～カ)に見られるような受講生の書写および「手本」観の変容が図られたことで、受講生の2時間目以降の学習意欲、目的意識は非常に高まった。

3 楷書原理の汎用化を促す字例作成の実践

楷書原理は、楷書の整え方の原理原則の意で、書写教科書においては単元や指導事項となっている。手元の小学校書写教科書から学習事項を取り上げると、後掲の表1のようであり、事項によっては低学年、中学年、高学年にまたがって取り扱われるものもある。表1のA列1)～18)が、小学校における書写学習の指導事項全体であり、これらの楷書原理は中学校1学年の前半においても再確認する。B列には、天石の資料⁶⁾に示される楷書原理を、A列の小学校教科書の学習事項と対応させて提示した。本稿では、表1の「字例作成」欄に○で示したA列5)、6)、7)、8)、12)、14)、15)の項目について、天石の資料(注6)によって楷書原理の理解・練習を行い、さらに受講生が楷書原理を他の文字に汎用化させる字例作成に取り組んだ授業(書道演習Ⅰ：楷書法)の成果と課題を考察する。また、ひらがなに関する事項のA列1)、2)、3)についても、汎用化字例の作成および考察を行う。全15時間の授業計画は、二頁後に提示したとおりである。

表1 書写（楷書）指導事項と楷書の原理（天石）対応表

* 「字例作成」欄の○は、本稿における字例作成項目

字例 作成	A 楷書の指導事項（小学校書写教科書）	B 楷書の原理（天石）
○	1) とめ、はね、はらい(小1,2年)	—
○	2) おれ、まがり、そり(小1,4年)	—
○	3) むすび(小1,4年)	—
	4) 筆順(小1,2年)	—
○	5) 字の形 外形(小1,2年)	八 全体の概形を考えて（基本形の原理）
	6) 字の中心(小2年)	六 中心はまっすぐに（中心線一貫の原理）
○	7) 点画の方向(小1,2,4年)	二 まっすぐ横に（水平の原理） 三 まっすぐ縦に（垂直の原理） 四 ならんだ画は平行に（平行の原理） 十四 相対する縦画の方向
○	8) 点画の長さ(小2,4年)	九 字幅をとる画、主だった画を考えて（主画強調の原理）
	9) 点画の間隔(小2,3,4年)	一 間を等しく（等分割の原理）
	10) 点画の接し方と交わり方(小2,5年)	—
	11) 点画の種類(2,3,4年)	—
○	12) 組み立て方(左右)(小3,4年)	五 左右は同じ形に（均斉の原理） 十 左右の関係（へんとつくりを含めて）
	13) 組み立て方(上下)(小4年)	十一 上下の関係（かんむりとつくを含めて）
○	14) 組み立て方(たれ、にょう、かまえ)(小4,5年)	七 つりあいを考えて（均衡の原理） 十三 左右上下にあきのある文字 十五 左にはらいのある文字は、下の部分をやや右に寄せてつりあいをとる 十六 縦画をやや右に寄せて中心をとる 十七 終画が浮鷺（まがり）の場合の場合は、その上の部分を左に寄せて浮鷺をのぼす
○	15) 組み立て方(三つの部分)(小6年)	十二 三つの部分から成る文字
	16) 点画のつながり(5,6年)	—
	17) 書くときの速さ(小5,6年)	—
	18) 文字の配列(小3,4,5,6年)	—

<書道演習Ⅰ（楷書法）授業計画>

1h 「書造形の原理」(天石)を読む	…字例作成5
2h 楷書の基本点画	10h <u>下部右寄せ</u> (小4年)
3h 等分割	<u>縦画右寄せ</u> (小4年)
4h 垂直、平行、中心、均衡	<u>上部左寄せ</u> (小3年)
5h <u>全体の概形(外形)</u> (小1,2年)	…字例作成6
…字例作成1	11~12h <u>ひらがなの筆使い</u> (小1,2,4)
6h <u>主画強調</u> (小2,4年) …字例作成2	…字例作成7
7h <u>左右の関係</u> (小3,4年) …字例作成3	13~14h 書写とICT
8h <u>上下の関係、三つの部分から成る文字</u> (小6年) …字例作成4	(毛筆大字範書動画試作)
9h <u>相対する縦画の方向</u> (小2年)	15h 講座のまとめ

(1) 字例作成1 全体の外形(概形) <表15> (小1,2年) >

ここでは、全15時間のうち、上記下線の内容の授業で行った楷書原理汎用化字例作成の結果と課題の考察について述べる。各回の字例作成の流れは概ね次のように行った。a)楷書の一原理に関する毛筆大字教材の練習を行う。b)毛筆大字教材の楷書原理を応用(汎用)できる文字を含む2字熟語(熟語として意味を成すもの)を選定し、大筆で書く。c)小筆で記名。作品を撮影する。d)ワープロソフトに作品画像を添付し、原理に照らして作品の感想や課題を記述する。(web上のレポート提出)

【外(概)形等凡例】○=円、□=四角、△=三角、▽=逆三角、縦□=縦長長方形、横□=横長長方形、四辺=平行四辺形、◇=ひし型、五角=五角形、常=常用漢字、外=常用外

【字例解説凡例】AB(□/○)(1/2)=(Aの外(概)形は四角、Bの外(概)形は丸。)

(Aは1学年配当漢字、Bは2学年配当漢字。)

i. 天石の毛筆大字教材

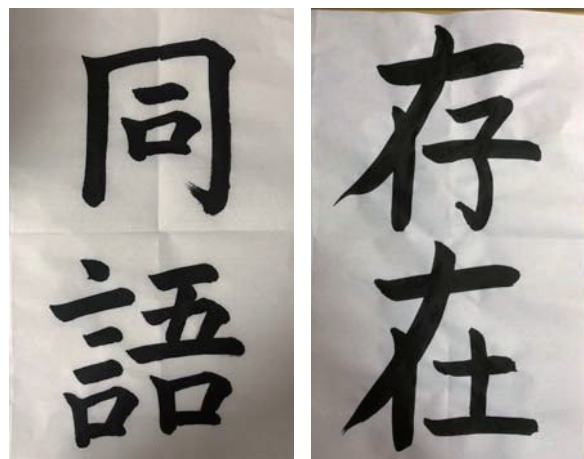
内海(□/○)(2/2)、民力(台形/平行四辺形)(4/1)、立市(△/▽)(1/2)]

ii. 受講生作成の汎用化字例

* ○/△	永久(○/台形)(5年/5年)	* □/▽	語句(□/▽)(2/5)
* □/○	門派(□/○)(2/6)	* 縦□/△	<u>自立(縦□/△)(2/1)</u>
* □/□	<u>図工(□/台形)(2/2)</u>	* 縦□/台形	自我(縦□/台形)(2/6)
	<u>同語(□/□)(2/2)</u>	* 縦□/四辺	<u>自力(縦□/四辺)(2/1)</u>
	同好(□/□)(2/4)	* 横□/縦□	<u>二月(横□/縦□)(1/1)</u>
	我々(□/小□)(6/外)		<u>四角(横□/縦□)(1/2)</u>
* □/△	政大(□/△)(5/1)		<u>八月(横□/縦□)(1/1)</u>

	八角(横□／縦□)(4／2)		山市(△／▽)(1／2)
* 横□／◇	八千(横□／◇)(1／1)	* ▽／□	市内(▽／□)(2／2)
	八寸(横□／◇)(1／6)		可能(▽／□)(2／5)
	八斤(横□／◇)(1／常)		市政(▽／□)(2／5)
* △／○	山海(△／○)(1／2)		市民(▽／台形)(2／4)
	立派(△／○)(1／6)	* 台形／○	民法(台形／○)(4／4)
* △／□	成功(△／□)(4／4)		政治(台形／○)(5／4)
	武功(△／□)(5／4)	* 台形／□	我流(台形／□)(6／3)
* △／四辺	武力(△／四辺)(5／1)	* 台形／台形	民政(台形／台形)(4／5)
* △／五画	武士(△／五角)(5／5)	* ◇／△	存在(◇／△)(6／5)
* △／▽	上下(△／▽)(1／1)	* ◇／□	毎月(◇／縦□)(2／1)

〔汎用化字例の考察〕右図のような受講生による字例作成にあたっては、漢字の範囲を限定せず、自由に作成してもらった。上の一覧は、受講生が作成した外(概)形を分類し、配当学年を昇順に配列したものである。文字の外(概)形は、小学校第1学年および第2学年の指導事項であり、硬筆で平仮名や漢字の字形の整え方を学ぶ上での一視点である。2字ともに第1, 2学年の配当漢字であるものには下線を付した。外(概)形原理の汎用化



字例(受講生筆)

教材としての有効性は、2字の外(概)形が異なること、また配当学年が適切かを考慮する必要がある。第1学年教材としては、二月(横□／縦□)(1／1)、八月(横□／縦□)(1／1)、八千(横□／◇)(1／1)、上下(△／▽)(1／1)、がより優先度が高いと言える。同様に、第2学年教材としては、自立(縦□／△)(2／1)、自力(縦□／四辺)(2／1)、四角(横□／縦□)(1／2)、山海(△／○)(1／2)、山市(△／▽)(1／2)、毎月(◇／縦□)(2／1)、市内(▽／□)(2／2)、が優先度が高い。他学年については省略するが、配当学年と2字の外(概)形を考慮して優先的な教材を系統立てることで、継続的な指導が可能となる。

(2) 字例作成2 主画強調(字幅をとる画、主だった画) <表18>(小2,4年)>

i. 天石の毛筆大字教材

卒業(横画／横画)(4／3)、宇宙(冠／冠)(6／6)、東天(左右払い／左右払い)(2／1)
元光(曲がり／曲がり)(2／2)、毛色(曲がり／曲がり)(2／2)
近代(しんによ／そり)(2／3)、少魚(左払い／れっか)(2／2)

ii. 受講生作成の汎用化字例

* 横画／横画

音楽(横画／横画)(1／2)

* 横画／払い

草木(横画／左右払い)(1／1)

草原(横画／左払い)(1／2)

春草(左右払い／横画)(2／1)

今昔(左右払い／横画)(2／3)

集会(横画／左右払い)(3／2)

* 払い／払い

会合(左右払い／左右払い)(2／2)

* 払い／曲がり

先進(曲がり／しんにょう)(1／3)

春光(左右払い／曲がり)(2／2)

先述(曲がり／しんにょう)(1／5)

* 払い／冠

天空(左右払い／冠)(1／1)

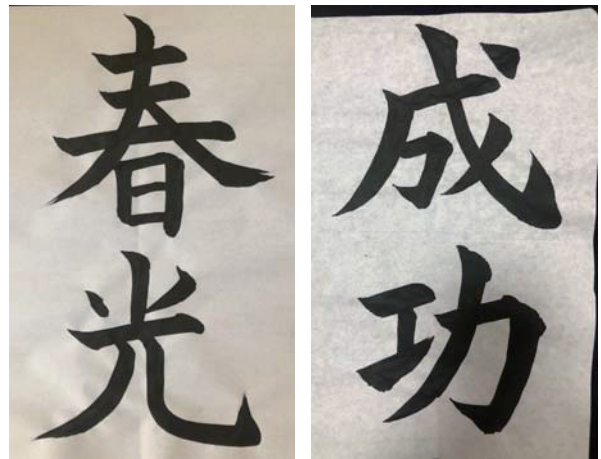
* 曲がり／曲がり

克己(曲がり／曲がり)(常／6)

* 曲がり／そり

先代(曲がり／そり)(1／3)

〔汎用化字例の考察〕主画強調の原理は、小学校第1学年及び第2学年の指導事項である点画相互の「長短(や方向)」にあたり、中学年以降も取り上げられる。草木(横画／左右払い)(1／1)や先進(曲がり／しんにょう)(1／3)、天空(左右払い／冠)(1／1)、先代(曲がり／そり)(1／3)などは、2字の主画の種類が異なり、効果的な字例である。克己(曲がり／曲がり)(常／6)は、中学校の教材とするのが適切である。



字例(受講生筆)

(3) 字例作成3 左右の関係 <表1 12> (小3, 4年) >

i. 天石の毛筆大字教材

古木(左右対称／左右対称)(2／1)、明朝(等幅／等幅)(2／2)、現代(狭広／狭広)(5／3)、印刷(広狭／広狭)(4／4)、仁祖(低高／低高)(6／5)、紅畑(低高／低高)(6／3)、時計(高低／高低)(2／2)、洋行(高低／高低)(3／2)、的確(高低／高低)(4／5)、動静(高低／高低)(3／4)

ii. 受講生作成の汎用化字例

* 左右対称／広狭

大洋(左右対称／狭広)(1／3)洋書(狭広／左右対称)(3／2)

* 左右対称／高低

都市(高低／左右対称)(3／2)平静(左右対称／高低)(3／4)静岡(高低／左右対称)(4／4)

* 等幅／高低

救助(等幅／高低)(5／4)

祈願(高低／等幅)(常／4)

群雄(高低／等幅)(4／常)

* 広狭／高低

海洋(狭広／高低) (2／3)

旋律(狭広／高低) (常／6)

* 広狭／主画

神業(高低／主画) (3／3)

* 高低／高低

行動(高低／同) (2／3)

時針(高低／同) (2／6)

神拝(高低／同) (3／6)

律詩(高低／同) (6／3)

規律(高低／同) (5／6)

新郎(高低／同) (2／常)

勅命(高低／同) (常／3)

神社(高低／低高) (3／2)仕組(低高／低高) (4／2)

印在(高低／低高) (4／6)

師仕(高低／低高) (5／4)

在住(低高／低高) (6／3)

* 高低／主画

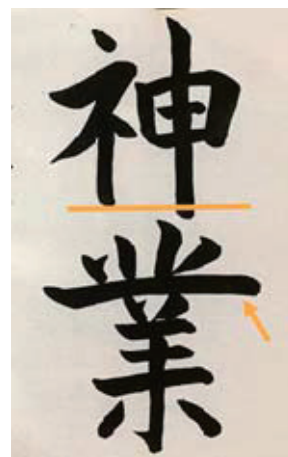
神業(高低／主画)(3／3)

師走(高低／主画) (5／2)

* 適切でない字例

印池(高低／低高) (4／2)

〔汎用化字例の考察〕左右の関係は、第3学年および第4学年の指導事項の「文字の組み立て方」に該当する。第1～4学年までの配当漢字で作成された字例には下線を付す。左右つまり偏と旁の関係は左右対称、非対称に大別できる。さらに非対称のものについて幅の広狭、形や位置の高低の観点から分類できる。受講生は、「行動(高低／高低) (2／3)」のように、2字ともに高低の関係で組み立てられる字例を多く見出していた。幅の広狭、形や位置の高低は、この両者が組み合わされて字形上に表れていることも多い。ただ両者を同時に扱うと、学習者の負担になることも考えられるため、実態に即した取り扱いが必要である。



字例(受講生筆)

右図は、主画強調に関する受講生作成の汎用化字例である。字形を整える上で、それまでに組み込んだ原理がどのように活かしているか分かるよう、色ペンで補助線の記入を求めた。また、主に当概授業で扱った原理からの明確な視点でコメントを添えるように促した。またそのことは、児童生徒に助言を行う視点とも共通すると説明した。(受講生のコメントは省略。)

(4) <字例作成4> 三つの部分から成る文字 <表1 15> (小6年) >

i. 天石の毛筆大字教材

測脚(縦三等分／同)(5／常)、急築(横三等分／同)(3／5)、森望(大中小／同)(1／4)

ii. 受講生作成の汎用化字例

* 縦三等分／縦三等分

概測(縦三等分／縦三等分) (常／5)御暇(縦三等分／縦三等分) (常／常)

* 縦三等分／高低

謝辞(縦三等分／高低)(5／4)

休暇(高低／縦三等分) (1／常)

地獄(狭広／縦三等分) (2／常)

湖畔(縦三等分／高低) (3／常)

* 縦三等分／広狭

故郷(狭広／縦三等分) (5／6)

* 縦三等分／横三等分

謝意(縦三等分／横三等分) (5／3)

意識(横三等分／縦三等分) (3／5)

等脚(横三等分／縦三等分) (3／常)

御意(縦三等分／横三等分) (常／3)

* 縦三等分／広狭

街頭(縦三等分／等幅) (4／2)

街路(縦三等分／狭広) (4／3)

街灯(縦三等分／高低) (4／4)

衛星(縦三等分／狭広) (5／2)

* 縦三等分／高低

街灯(縦三等分／高低) (4／4)

* 縦三等分／大中小

郷愁(縦三等分／大中小) (6／常)

御祭(縦三等分／大中小) (常／3)

瀬祭(縦三等分／大中小) (常／3)

* 横三等分／横三等分

慧慈(横三等分／横三等分) (外／常)

* 横三等分／横二等分、左右対称、垂直

意思(横三等分／横二等分) (3／2)

平等(左右対称／横三等分) (3／3)

千尋(垂直／横三等分) (1／常)

* 大中小／大中小

聖品(大中小／大中小) (6／3)

賃貸(大中小／大中小) (6／5)

森羅(大中小／大中小) (1／常)

賢智(大中小／大中小) (常／(人))

* 大中小／広狭、主画、高低

祭典(大中小／広狭) (3／4)

賞品(主画／大中小) (5／3)

驚動(大中小／高低) (常／3)

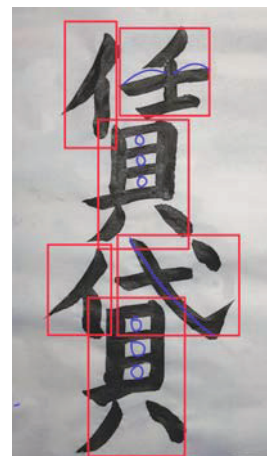
* 適切でない字例

知恵(－／－) (2／常)

築浅(横三等分／－) (5／4)

傾意(縦三等分／横三等分) (常／3)

〔汎用化字例の考察〕三つの部分から成る文字は、第6学年の「文字の組み立て方」の事項に含まれ、①各部分が横並びで幅が縦三等分となるもの、②各部分が縦並びで高さが横三等分となるもの、そして③各部分が三角状に左上・右上・下または上・左下・右下に組み立てられるもの、に大別される。作成された字例は、二字ともに三つの部分から成る字例と、一字だけが三つの部分から成る字例が半々であった。上掲の下線の字例は、二字ともに三つの部分から成る文字で作成された字例である。三つの部分から成る文字は、画数の多い複雑なものも多く、第4学年以上の配当漢字で増加する。三つの部分を三角状に組み立てる字例は、各部分の距離感に注意して、文字が有機的に結びついて見えることが大切である。なお、字例の提出にあたっては、字形を整える上で今回の原理がどのように活かしているか分かるように、色ペンで補助線および大、中、小を記入するよう求めた。また成果物（作品）について、主に当概授業で扱った原理の明確な視点でコメントを付すよう求めた。(受講生のコメントは省略。)



字例(受講生筆)

(5) 字例作成5 相対する縦画の方向 <表17> (小2年)>

相対する縦画の方向には、縦長字形の場合は垂直に、横長字形の場合は下方を狭く、という書き分けがある。書法史上における古人の繊細な美意識の蓄積が、このような書き分けを生んだものと考えられる。

i. 天石の毛筆大字教材

田園(下方狭く／垂直) (1／2)

ii. 受講生作成の汎用化字例

* 相対する縦画の方向(垂直・下方狭く)

自問(垂直／垂直) (2／3)

自白(垂直／下方狭く) (2／1)

両国(下方狭く／垂直) (3／2)

意図(下方狭く／垂直) (3／2)

* 相対する縦画の方向／下部右寄せ

国庫(垂直／下部右寄せ) (2／3)

同席(垂直／下部右寄せ) (2／4)

問屋(垂直／下部右寄せ) (3／3)

白眉(下方狭く／下部右寄せ) (1／常)

名店(下方狭く／下部右寄せ) (1／2)

屋台(下部右寄せ／下方狭く) (3／2)

* 相対する縦画の方向／上部左寄せ

自己(垂直／上部左寄せ) (2／1)

白色(下方狭く／上部左寄せ) (1／2)

鼻毛(下方狭く／上部左寄せ) (3／2)

自宅(垂直／上部左寄せ) (2／6)

* 相対する縦画の方向／縦画右寄せ

両手(下方狭く／縦画右寄せ) (3／1)

団子(垂直／縦画右寄せ) (5／1)

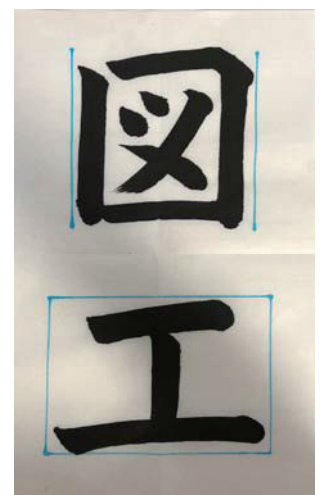
* 相対する縦画の方向／高低・対称・主画

外国(高低／垂直) (2／2)

図工(垂直／左右対称) (2／2)

丹田(主画／下方狭く) (常／1)

[汎用化字例の考察] 四角形を字形に含む文字は多く、本原理は多くの文字に活かされていると言える。上掲の汎用化字例の2字目に、「下部右寄せ」等の次項の内容と関連するものが増えているのは、同一時間中に次項の内容にも入ったからである。児童生徒には、相対する縦画の方向に垂直または下方を狭くするという書き分けがあることについて、その理由を考えさせる発問を行いたい。なぜ縦長字形の相対する縦画は垂直に書き、横長字形の相対する縦画は下方を狭く書く(ほうがよい)のか。原理とは逆に書いて試してみるなど、試行錯誤する中で腑に落ち、深い学びにつながるものとする。



字例(受講生筆)

(6) 部分や画の右寄せ・左寄せ <表14> (小4,5年)>

部分や画の右寄せ・左寄せは、文字の中心に対する部分や画の位置に関する内容である。そのうちここでは次の原理について扱った。

- ・下部右寄せ (左払いのある文字は、下部をやや右へ寄せて釣り合いをとる。)

- ・縦画右寄せ（左側に画が多い、また縦画にはねのある場合、縦画をやや右に寄せて中心をとる。）
- ・上部左寄せ（終画が浮鷺[曲がりからのほね]の場合、上部を左に寄せて浮鷺を伸ばす。）

i. 天石の毛筆大字教材

石屋(下部右寄せ／下部右寄せ)(1／3)、子牛(縦画右寄せ／縦画右寄せ)(1／2)、
毛色(上部左寄せ／上部左寄せ)(2／2)

ii. 受講生作成の汎用化字例

* 下部右寄せ／縦画右寄せ

左手(下部右寄せ／縦画右寄せ)(1／1)
原子(下部右寄せ／縦画右寄せ)(2／1)
名手(下部右寄せ／縦画右寄せ)(1／1)

* 下部右寄せ／上部左寄せ

居宅(下部右寄せ／上部左寄せ)(5／6)

* 縦画右寄せ／縦画右寄せ

学生(縦画右寄せ／縦画右寄せ)(1／1)
予告(縦画右寄せ／縦画右寄せ)(3／5)

* 縦画右寄せ／上部左寄せ

生花(1／1)

* 上部左寄せ／高低・払い・狭広・主画

羽毛(高低／上部右寄せ)(2／2)

他人(上部右寄せ／払い)(3／1)

故宅(狭広／上部右寄せ)(5／6)

克己(主画／上部右寄せ)(常／6)

巳年(上部右寄せ／主画)((人)／1)

* 適切でない字例

毛屋(2／3)

[汎用化字例の考察] 文字を書く際は、先に書く点画の長短や方向、位置に応じて、後のそれを微調整させながら、字形を組み立てていく。本原理は、文字全体の釣り合いや安定に関するもので、小学校第4学年から第5学年で扱われる。「下部右寄せ」の字例として、左払いや垂れを含む文字は比較的容易に挙げることができるだろう。「縦画右寄せ」は、文字の中心に縦画があり、その縦画が上または下に出ている文字を挙げている。「上部左寄せ」は、終画が浮鷺（曲がりからのほね）の文字が挙げられている。字形の釣り合い・安定は、点画位置の偏在を総体的に直感で捉えた結果感じ取られるものであり、空間認識と関係が深いであろうが、ここでは深く立ち入らない。

(7) 字例作成6 ひらがな <表1 1)～3) (小1, 2, 4年)>

(1)～(6)の楷書原理の汎用化字例を作成する流れで、ひらがなの汎用化字例の作成も課した。楷書に調和するひらがなは、小学校の学習事項である。ひらがなの用筆は、横・縦・斜め・点・右回り・左回り・大回り・結び・折れなどに分類され、事前にひらがなに含まれる用筆項目を確認した。最多四項目を含むものは「え、な、ね、む」、三項目を含むものは「あ、お、せ、ぬ、は、ひ、ほ、み、や、ゆ、る、れ、わ、ゐ、ゑ、を」であろう。

i. 受講生作成の汎用化字例

(二字) ふゆ あか なえ ふね あお あき あさ あな あね あめ あゆ あわ せわ
はえ はれ ひる ふえ

(三字) えがお はかせ かれは あかね えひめ おかね おなか おはな おふろ せかい
せなか なまえ ぬりえ はなび ひかり ひばり わかれ わなげ
(四字) ひまわり あこがれ あまぐも あかえび あかばね あさがお えんぴつ おかわり
おわかれ かけなわ かげろふ かながわ かわせみ ふろおけ わかたけ わかれめ

〔汎用化字例の考察〕上掲の字例は、作成者の多かった順に配列している。二重下線を付した文字は、ひらがなの用筆項目を最多の四項目含むもの、下線を付した文字は、同じく三項目を含むものである。ひらがな用筆の汎用化字例としては、複数の用筆項目を含む平仮名を組み合わせることで効率的に学ぶことができる。この視点から優先的な字例を挙げると、二字では「なえ」「あな」「あね」「はえ」など、三字では「おはな」「はなび」「なまえ」「えがお」など、四字では「あかえび」「あかばね」「おわかれ」「えんぴつ」「かけなわ」「かながわ」などが用筆項目を多く含み、汎用化教材としてより適していると言えよう。また、前掲の浦野・津村・樋口・外田（2001）（注4）により、平仮名では特に「結び」「大回りの線」の指導の重要性が指摘されていた。結びを含むものは「ぬ、は、み、よ」「な、ね、ほ、ま」「す、む、る、ゐ、ゑ」大回りを含むものは「あ、ぬ、の、め、ゐ」「お、ゆ」であり、これらを一部に含む教材を作成することも、ひらがな指導の要点を抑えることになるだろう。因みに、片仮名教材では「ビル」が、片仮名の複数の用筆を含む字例として以前より頻出している。

4 考察および今後の課題

本稿では、書道演習Ⅰ（楷書法）の受講生による楷書原理の汎用化字例作成の活動について、作成された字例と考察を述べた。この授業の根本には、筆者が受講生の様子から感じていた旧来の「手本」観の存在とその改善のねらいがあった。書写指導者の役割は、学習を少数の教材に閉じてしまうのではなく、児童生徒が教材から楷書原理を学び取り、その原理を他の文字へ汎用化する次のステップへ進めるように促すことである。本授業は、そのような指導観、教材観を持つ書写指導者の育成を期待して実施したものである。提示した楷書原理とは異なる不適切な字例を挙げた受講生もいたが、筆者の説明不足によるものであり、今後の取り組みの改善点とすべくそのまま掲載した。

歴史的に定着してきた楷書原理を項目別に分類し、系統立てて学ぶことは大切である。ただ、指導者が楷書原理の歴史的事実だけを一方通行に教え込むだけでは、児童生徒の学習満足度は低いものとなろうし、授業でじっくりと取り扱われない多くの文字への汎用化の意識は生まれないであろう。児童生徒がなぜその楷書原理が原理たりえるのかを、思考力・判断力・表現力を働かせて学べるような授業者の発問や授業展開の工夫が必要である。また書写指導者は、漢字や仮名の組み立て方をさらに詳細に分類・整理して汎用化字例の種類や量を豊富にし、それらをいつでも提示して、楷書原理の汎用化を促すことができる体制を整備しておくことが求められよう。

-
- ¹ 天石東村 (1975), 書の教室(一)楷書, 日本放送出版協会, pp.40-41
- ² 久米公 (2017), 学習指導要領準拠 漢字指導の手引き 第八版, pp.102-113 などの参考資料がある。
- ³ 小竹光夫 (2001), 教師に求められる「書写実能力」への分析と考察, 書写書道教育研究 15, 全国大学書写書道教育学会, pp.21-30
- ⁴ 浦野俊則・津村幸恵・樋口咲子・外田久美 (2001), 教員養成課程学生の書写力と授業改善, 書写書道教育研究 15, 全国大学書写書道教育学会, pp.81-94
- ⁵ 書写では「(教科書)教材」,「(指導者による)範書」などの用語をするが, ここでは一方的な教授や模倣のイメージを含む古来の用語のニュアンスで, 鍵括弧付きの「手本」としている。
- ⁶ 同注 1, pp.42-123